

【巻頭言】

心理相談センターの来し方行く末

心理相談センター長 一 円 禎 紀

「比治山大学大学院心理相談センター紀要第18号」をお届けします。

本誌は比治山大学大学院現代文化研究科附属心理相談センター（以下、センター）の規程に基づき、心理臨床に関する理論的実践的研究や大学院生等の研修の成果を発表することを主たる目的として、平成17（2005）年度に「年報」として出発し、平成26（2014）年度の第10号から「紀要」に改称しました。

また、前センター長の退職にともない、今年度からセンター長を交替いたしました。当センターは平成16年4月に発足し、塩山二郎先生が初代センター長に就任されました。本学大学院での臨床心理士養成が始まり、塩山センター長のもとで、教育訓練や地域支援体制が確立しました。平成26年度からは兒玉憲一先生がセンター長を引き継がれ、土曜日の開室や臨床心理士・公認心理師両資格に対応するカリキュラムへの移行など、現在の体制を作ってくださいました。その間に、非常勤相談員が1名増員となり、センターでの相談と臨床指導を行う臨床系教員も5名から10名へと倍増しました。近年は面接事例だけでなく他施設からの心理検査依頼が多くなり、大学院1年生の後期からセンターで検査実習を行うこともふえました。平成2年度からは新型コロナウイルス感染症蔓延のため、センターでの相談活動や学生の実習が大きく制限され、特に今年度は臨床系教員が一時的に減少するなど、現在かなり危機的な状況ではありますが、それでもセンターでの臨床実習を止めることなく、必要な教育訓練をどうにか行うことができております。

さて、本誌第18号の研究論文は残念ながらわずか2編のみでした。ここしばらく学生数が一時的に減少したことやコロナ禍で十分な研究成果があげられなかったことなどが影響したかと思います。ご投稿いただいた先生方に感謝申し上げます。

令和3（2021）年度のセンター活動実績報告書は、昨年度からセンター技術助手兼相談員である道岡和子先生に執筆してもらいました。道岡先生は寺川由美非常勤相談員とともに学生実習のための保護者面接や検査前面接を担当していただいています。おふたりにもたいへん感謝しております。

今年度の大学院1年生は学部での公認心理師科目を修めた第1期生で、人数もまた少しふえました。来年度はセンターで実習を行う中心学年となります。さらに、公認心理師法の見直しや、本学学部・大学院のカリキュラムの修正を検討する時期でもあります。これらのさまざまな変化に対応できるよう、センター教職員が一致協力して業務を支えて参りたいと思います。

読者の皆様には、今後とも当センターへのご支援ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。